

# 「令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

【富里中学校】

令和4年4月19日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本市の中学校の結果についてお知らせします。

## 1 生徒が受けた調査について

「国語」、「数学」、「理科」「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### 教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等  
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

### 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

\*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>

## 2 本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について 【※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較】

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
数 学	学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
理 科	学習指導要領における第1分野の「エネルギー」を柱とする領域と「粒子」を柱とする領域、第2分野の「生命」を柱とする領域からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

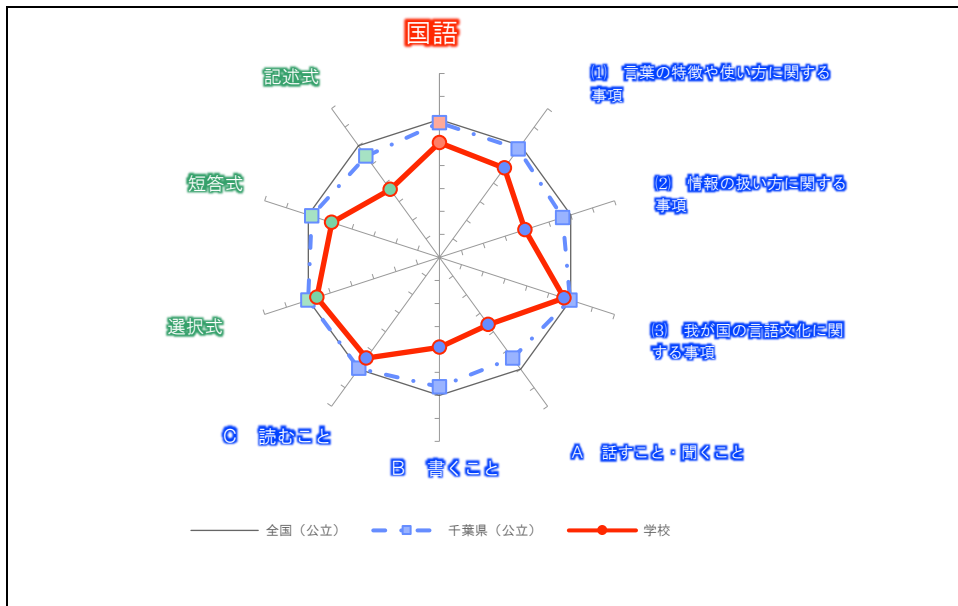
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) 教科ごとの分析

### 国語



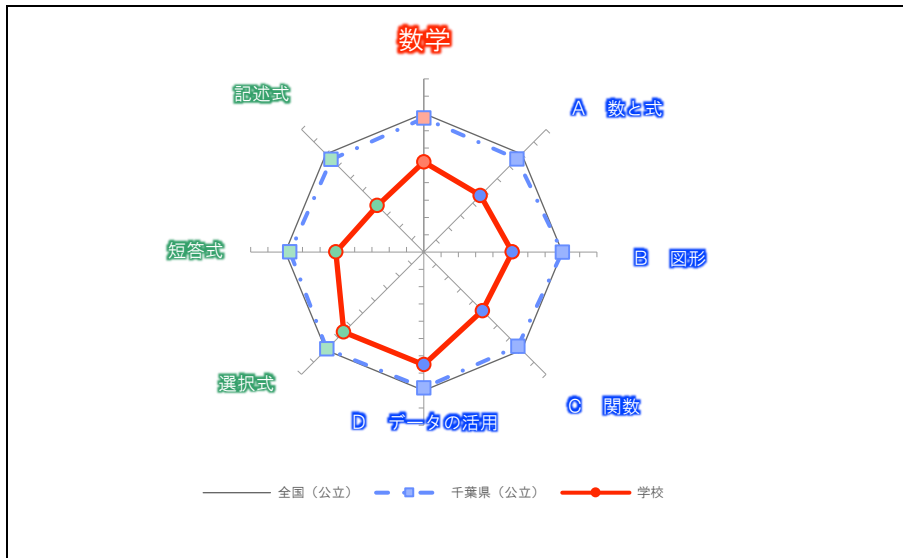
#### 【特徴と現状】

- ・本校と全国平均を比較すると、本校の正答率は全国平均よりも－7ポイント低い結果でした。
- ・本校は、「我が国の言語文化に関する事項」と「読むこと」の分野が全国平均に近い結果でした。この分野は漢字の知識の問題であり、本校国語科の取り組みである漢字の書き取りの成果だと考えられます。
- ・知識及び技能における「情報の扱い方に関する事項」と記述式、話すこと書くことの分野が、全国平均よりも10ポイント以上低い結果でした。
- ・以上のことから、本校生徒は読むことは得意ですが、自己の思考を「話す書く」などで表現することを苦手としている傾向にある生徒が多くいることがわかりました。

#### 【改善方策等】

- ・記述式の対策として、基礎知識の習得や漢字の小テスト、意味調べなどを系統的に実施していきます。
- ・文章の内容を捉える力は比較的定着しつつあります。構成や展開の流れを意識し、文章の要約に取り組んでいきます。
- ・「学び合い学習」の中で、自分の考えを発表する機会を増やし、概要を明確にして伝えたり、書いたりできるように指導していきます。
- ・授業のまとめに振り返りとして、学習した内容を文章でまとめることを継続して指導していく
- ・本校では、各生徒が各自でノートを準備して家庭学習を行っていますが、国語を自学で行う生徒は比較的少なく、行っているとしても漢字やワークが中心です。読み取りは比較的得意とする一方、自分の意見を書く話すなどで表現することを苦手としている生徒が多くいるため、授業中を中心に表現活動を行っていきます。

## 数 学



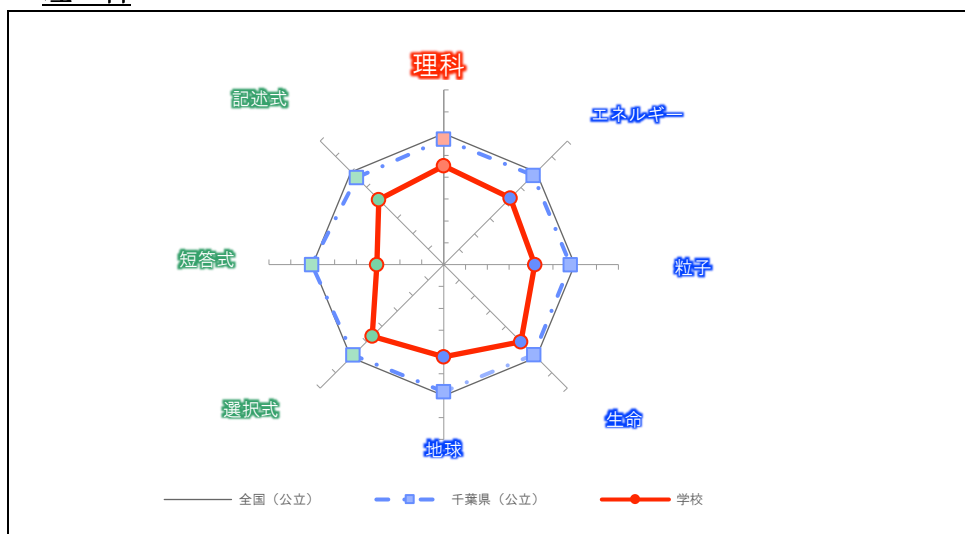
### 【特徴と現状】

- ・全国平均よりも、全体的に－14ポイント低い結果でした。
- ・「数と式」や「関数」を中心に、各分野で10ポイントほど全国平均よりも低い結果でした。
- ・誤答調査による本校の誤答の内訳は、純粋な誤答の割合よりも「無解答」が多くの設定において上回っています。さらに、本調査における数学の生徒質問紙「今回の数学の問題では、言葉や数、式を使って、説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」の質問に「解答を諦めてしまうことがあった」という解答が6割を超えていました。
- ・以上のことから、数学の基礎計算力の不足が挙げられ、さらに文章を理解し、問題の意図を把握する力とその解答を導き出す力の育成が課題であることが示唆されました。

### 【改善方策等】

- ・基礎基本の定着を確実にを行うため、基礎的な計算ドリルを繰り返し行います。
- ・少人数学習の利点を生かし、きめ細やかで的確な指導を行い、確実な理解を深めていきます。
- ・本校では、入学時から、算数にかなりの苦手意識を抱えている生徒が多くいます。算数に苦手意識がある生徒は、数学だけでなく他教科の計算分野でも影響を及ぼしています。苦手意識を取り除くためには、授業中に声かけを行い理解度を確認しながら授業を行うことはもちろんのこと、少人数制度を設け、それぞれの学力にあった進度で授業を進めていきます。また、小学校と連携して、四則計算の定着を図ります。
- ・基礎学力の定着のみならず、学習した内容を使って問題を解くような応用問題にたくさん取り組む機会を多く設けていきます。基礎を学び、基礎を使うことで学力の定着を図っていきます。

## 理科



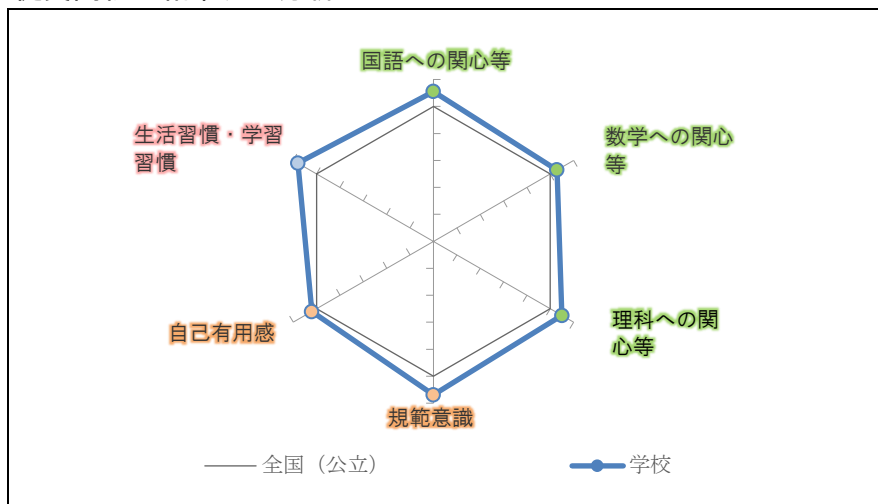
### 【特徴と現状】

- 全国平均と比較すると、本校の正答率は全体的に－7ポイントほど低い結果でした。
- 他の教科ほど分野ごとの著しい全国平均との差は見られないものの、短答式において他教科よりも正答率が低い傾向にあります。
- 今回の調査では、日常生活における経験を問われる問題が出題されました（「エネルギー」の分野からは、静電気を利用したタッチパネルの反応など）。これらの分野の正答率が低いことから考察すると、授業などで身に付けた知識と日常生活における経験を関連付けて考え、科学的に考える力を高めることが課題であると考えられます。
- 化学反応を化学反応式によって表記することはできている生徒も多いですが、分子や原子などの目に見えない物質の状態が変化する概念的理解に課題があることが考えられます。
- 本校生徒は、各分野の基礎的な学力の未定着の傾向にあります。
- 生徒質問紙から、本校生徒では、授業などで身に付けた知識が「将来役にたつか」という質問が他教科と比較すると低い傾向にあり、授業中に科学的に探求する過程を通して、理科を学ぶことの意義や有用性の実感を高める必要があります。

### 【改善方策等】

- 基礎基本の定着を行うために、細かく確認テストや補足プリントを配布し、取り組んでいきます。
- 理科の授業では、実験や観察を行うことで、共同作業が授業中に多くあります。その中で、主体的な学びが展開されており、理科の授業は高い理解度を示しています。今回の調査から、それぞれの計算や公式は理解しているものの、グラフの読み取りやその意味を理解し計算することを苦手としていることがわかりました。グラフの読み取りは、理科では必須な事柄であり、授業中に丁寧な解説をしながら、問題に取り組ませています。
- 実験の原理や理論を学習するだけでなく、まとめの際に、身近な例を紹介すると共に、科学の功罪も含めて考えさせる時間をとっていきます。
- 自分の考えを文章に起こすことを苦手とする生徒も多くおり、順序だてて文章を書く指導を継続的に行っていきます。

### (3) 生徒質問紙の結果及び分析



#### 【特徴と現状】

- すべての項目で、全国平均を上回る結果となりました。
- 今回の調査の3教科において、その教科が「好き」と答える割合は、全国平均よりも国語（+11）、数学（+6）、理科（+11）でした。授業の内容がよくわかると答える割合も全国平均をどの教科も上回りました。
- 将来役に立つかという質問においては、理科のみ全国平均以下となったことから、理科の有用性について感じられていない可能性があります。
- 本調査の数学において、解答を諦めてしまうことがあったという割合が6割を超えています。
- 本調査において、宿題を提出することや授業への意識は全国平均を大きく上回る結果となった。本校生徒の授業への取り組みを見ても、授業への意識の高さがうかがえます。
- 本校では、平日に3時間以上勉強する生徒の割合が3%にとどまり、0～1時間の生徒が50%となっています。土日になるとそれがより顕著となっています。
- これらのことから、本校生徒は学校での取り組みは自己評価も高く、大変良い取り組みをしていることがわかります。しかし、自主学習への取り組みで大きな課題があることが示唆されました。

### 3 まとめ

- 今回調査が行われた3教科に関して、本校では各教科が「好き」という回答と、「授業がわかる」という回答は、全国平均を大きく上回る結果でした。
- 本校生徒は、学校での授業への取り組みは自己評価も高く、実際の取り組みは素晴らしいものがありますが、自主学習となると平日に3時間以上学習している生徒は3%しかおらず、50%は0～1時間の学習時間であることがわかりました。
- 今回の3教科はいずれも全国平均を下回る結果となり、各教科で改善が必要です。国語では、自分の考えを「話す書く」等で表現すること、数学では計算力と答えを導き出す力、理科では、基礎学力とその知識の応用が課題です。各教科で共通していえることは、自己表現力の育成であり、育成の過程で培われる思考が、「この問題は、あの考え方に似ているな。もしかしたらあと少しで解けるかも？」という思考を育み「あきらめず、答えを導くこと」につながります。
- 本校では、今回の調査を鑑み、管理職・教務・研究主任・各教科主任と連携を図り、授業や自主学習の改善に取り組み、学力向上を図ります。